

保育者－保護者間のコミュニケーションの改善をめざした研究 －保育者に必要な能力・資質に関する幼児教育学科学生の意識－

真 下 知 子 張 貞 京 中 村 博 幸

保育者養成課程における保護者とのコミュニケーション能力の向上をめざした取り組みの第一歩として、本学幼児教育学科1年生を対象に、アンケート調査を実施した。結果として、入学時の学生がもつ保育者－保護者間のコミュニケーションに関するイメージが顕在化するとともに、学生自身のコミュニケーション能力に関する苦手意識が明らかになった。これらを踏まえて、今後、体験を重視した教育プログラムの開発を進めていきたい。

キーワード：幼児教育、保育者、保護者、コミュニケーション

1. はじめに

わが国においては、1995年のエンゼルプラン（緊急保育対策等5ヵ年事業）以降、待機児童問題に対する様々な対策がとられてきたが、未だに保育所新增設が対策の支柱とならず、規制緩和による既存保育所への入所増や、保育所以外の多様な受け皿づくりによる対応がなされている。結果として、保育所の「詰め込み」による保育環境の悪化が懸念されている¹。

また、新たな保育指針では、子どもや家庭を取り巻く環境の変化や保護者の就労状況等の多様化などを踏まえ、保育所の役割や機能の明確化と地域における保育の専門機関として社会的責任を果たすことを求めるとともに、子どもの保育と保護者支援を担う保育士の専門性向上を重視している。

これらを背景に、筆者らは、多数かつ多様な子どもを受け入れている保育現場においては、今まで以上に保育者－保護者間の効果的なコミュニケーションを図る技術が求められ、保育者

養成課程においても、現場での学びの礎となる取り組みが必要であると考えた。今回はその第一歩として、保護者対応に必要な能力の育成に関する現状を整理するとともに、本学幼児教育学科1年生を対象に、「保育者に必要な能力・資質」および学生自身のコミュニケーション能力に関する意識についてアンケート調査を実施した。

2. 保護者とのコミュニケーション能力

（1）保護者とのコミュニケーション能力の必要性

太田は、東京、神奈川の幼稚園20園、幼稚園教諭156名を対象とした調査の結果より、「保護者とのコミュニケーション能力」は「現場で保育経験がなければなかなか身につかない」とされる能力の第1位であると述べている²。

また、善本は、横浜市の認可保育所259園の施設長（園長）を対象とした調査の結果より、対子ども、対保護者、対保育士という3つのコミュニケーション場面のうち、多くの保育士が

保護者とのコミュニケーションを最も苦手としていること、また、基本的な表現力をはじめとして、困難なコミュニケーション状況を打開したり、複雑な家庭環境に置かれた保護者に共感して積極的に働きかける力、積極的に自己を開示する力が不足していることを指摘している。さらに、子どもを保育し、教育する専門職としてのスキルはこれまでの保育士養成課程において教えられてきたが、保護者や、保育士どうしのコミュニケーションに対応するスキルはまったく習得する機会がないと述べている³。

他方、杉山らは、保育者養成課程に在籍する学生118名を対象とした調査の結果より、保育者として就職するにあたって不安に思う事柄のうち、最も多かったのは「保護者との関係」であると述べている⁴。

(2) 養成課程における育成は可能か

筆者らは、前述の先行研究が示す、以下3点、

- ①保護者対応の力は現場でしか身につかない
 - ②保育者は保護者対応を苦手としているが、養成課程では取り組まれてこなかった
 - ③学生は保護者対応に不安を感じている
- のうち、②の問題を解決する適切な手法が開発されれば、③のように不安を感じている学生も意欲をもって取り組み、①が示す、これまで養成課程において難しいとされてきた「保護者とのコミュニケーション能力」を育成することが可能になるのではないかと考えた。その第一歩として、今回は学生のもつ意識や不安感等の実状を明らかにすることを試みた。

3. 幼児教育学科学生を対象としたアンケート

(1) 調査の目的

保育者に必要とされる能力・資質のうち、入

学時の学生が「保護者とのコミュニケーション能力」の重要性や実際のやりとりに関するイメージや意識をどの程度持っているか、また、学生自身のコミュニケーション能力の意識を調査し、今後の教育プログラムに必要な内容・方法を検討することを目的とした。

(2) 調査の対象

K短期大学、幼児教育学科1回生 274名

(3) 調査の実施日時

2010年4月第2～3週目、「障害児保育」「発達心理学」の授業中に実施

(4) 調査の内容

質問内容の概要を以下に、質問紙を資料1に示す。なお、今回分析対象としたのはA～Eの項目である。

A：回生、高校の出身学科

B：本学幼児教育学科への進学志望動機

C：保育者に必要な能力・資質

C-1：保育者に必要な能力・資質に関する意識

- (1. 子どもの理解、2. 子ども同士をつなぐ配慮、3. 子どもとの信頼関係の構築、4. 適切な指導計画と援助のあり方を考えること、5. 保育についての知識、6. 同僚との望ましい人間関係、7. 特別な配慮を要する子どもへの対応、8. 小学校等、他の教育機関との連携、9. 保護者への対応、10. 保育活動を保護者や地域へ説明すること、11. お便り等を書く文章力、12. 人権の理解と指導、13. 社会人としてのマナー)

C-2：C1で自分に特に必要だと思う能力

D-0：保護者対応の一事例（迎えの時間に来なかった保護者へ電話連絡した際、保護者から抗議があったとする内容）について、保護者の考えを推察するもの

D-1：「保護者への連絡」に関するイメージ

D-2：「保護者からの相談」に関するイメージ

E：学生自身のコミュニケーション能力に関する意識

- (1. 他人と話していて会話が途切れないか、
2. 他人にやってもらいたいことをうまく指示できるか、3. 相手をうまくなだめることができるか、4. 知らない人でもすぐに会話がはじめられるか、5. 人との間に起きたトラブルをうまく処理できるか、6. 他人同士の会話に気軽に参加できるか、7. 批難されたときうまく片付けることができるか、8. 失敗したとき、謝ることに抵抗があるか、9. 違う意見をもつ人ともお互いの意見を尊重しあい、協力できるか、10. 人の行為に素直にお礼を言うことができるか、11. 困っているときにうまく助けを求められるか、12. 相手の話をじっくり聞くことができるか)

F:対人関係に関する悩みの有無と理由

質問A、Bについては該当するものを選択、C、Eについては各項目について①おおいに重要～④あまり重要でない、の4つから選択し、D、Fについては自由記述による回答を求めた。

(5) 分析の方法

質問項目A、B、C、Eについては単純集計、Dについてはカテゴリーによる分類を行った。

4. 結果・考察

回収したアンケートは272（回収率99%）、有効回答数は271であった。

(1) 回生、高校の出身学科等について（質問A）

質問Aの回答結果を表1に示す。

1回生以外の学生は最履修者等である。また、高校の出身学科のうち「系列校」とはK高等学校内部進学コースを指している。

表1 回生、高校の出身学科等（質問A）

A	回生	1回生	265	98%
		その他	3	1%
		無回答	3	1%
	出身学科	普通科	207	76%
		系列校	41	15%
		その他	21	8%
		無回答	2	1%

(2) 本学幼児教育学科への進学志望動機について（質問B）

質問Bの回答結果を表2に示す。最も多かった回答は、「子どもが好きだから」257（95%）、次いで「保育者にあこがれて」209（77%）、「体験学習の経験から」152（56%）、「やりがいのある仕事だから」136（50%）と続いた。

表2 本学幼児教育学科への進学志望動機（質問B）

B	1. 幼稚園教諭・保育士にあこがれて	209	77%
	2. 自分の幼稚園・保育園の先生との良い思い出があるから	124	46%
	3. 子どもが好きだから	257	95%
	4. 自分の特性を生かしたいと思うから	85	31%
	5. 幼稚園・保育園での体験学習の経験から	152	56%
	6. ボランティアの経験から	51	19%
	7. やりがいのある仕事だから	136	50%
	8. ただ何となく、他に適当な職業がないから	3	1%
	9. 周囲の人がすすめるから	17	6%
	10. 経済的に安定しているから	11	4%
	11. 資格を取得できるから	125	46%
	12. その他の理由がありましたら自由に記述してください。	0	0%
	合 計	1170	

(3) 保育者に必要な能力・資質に関する意識について（質問C-1、C-2）

質問C-1、C-2の回答結果を表3-1、3-2に示す。また、質問C-1における回答結果の傾向を示すグラフを図1に示す。

表 3－1 保育者に必要な能力・資質に関する意識（質問C-1）

		①おおいに重要 (4点)	②重要 (3点)	①+② 割合	③どちらかといえ ば重要 (2点)	④あまり重要でない (1点)	③+④ 割合	合計
C1	1. 子どもの発達や内面を適切に理解し、遊び・生活への援助を行うことができる	199	67	99%	4	0	1%	270
	2. 子どもの集団を把握し、子ども同士をつなぐように配慮することができる	135	113	92%	18	3	8%	269
	3. 子どもと信頼関係を築くことができる	195	74	100%	1	0	0%	270
	4. 子どもを理解したうえで、指導の計画を立て、適切な環境や援助のあり方を考えることができる	180	84	98%	4	1	2%	269
	5. 保育についての基礎的な知識がある	178	81	96%	11	0	4%	270
	6. 同僚との望ましい人間関係を構築できる	101	140	89%	29	0	11%	270
	7. 他の子どもよりも特別な配慮を必要とする子どもに適切な対応ができる	155	94	92%	21	0	8%	270
	8. 小学校などの教育機関との連携をとることができる	47	135	68%	80	7	32%	269
	9. 保護者への適切な対応ができる	209	59	99%	2	0	1%	270
	10. 保育活動について、保護者や地域にきちんと説明できる	149	105	94%	15	0	6%	269
	11. 分かりやすい文章で、お便り帳やクラス便りを書くことができる	161	99	97%	8	1	3%	269
	12. 人権について理解し、幼児に人権意識とそれに基づいた行動を指導できる	130	110	89%	29	1	11%	270
	13. あいさつ、言葉遣いなど、保育者・社会人としてのマナーがある	232	35	99%	2	0	1%	269
	14. その他、上記の項目以外で必要と思うものがあれば自由に記述してください。	0	0	0%	0	0	0%	0

表3-2 C-1のうち特に自分に必要だと思う能力（質問C-2 自由記述）

C-2	1 子ども理解	141
	2 子ども同士をつなぐ	75
	3 子どもとの信頼関係	154
	4 指導計画と環境、援助の工夫	90
	5 保育に関する知識	99
	6 同僚との人間関係構築	42
	7 特別な配慮を要する子どもへの対応	86
	8 小学校など他機関との連携	21
	9 保護者への適切な対応	138
	10 保護者、地域への説明	41
	11 分かりやすい文章を書く力	49
	12 人権の理解と幼児への指導	54
	13 あいさつなどのマナー	169

C-1：保育者に必要な能力・資質に関する意識については、どの項目も肯定的な回答が大部分であったが、8. 小学校等、他の教育機関との連携についてはやや低かった。

C-2：自分に特に必要だと思う能力のうち、9. 保護者への対応は138と13. 社会人としてのマナー（169）、3. 子どもとの信頼関係（154）、1. 子どもの理解（141）に次いで多かった。

（4）保護者対応に関する状況やイメージの記述について（質問D）

質問D-0：保護者対応の一事例に関して、保護者の考えを推察することを求めた質問については、324件、D-1：「保護者への連絡」に関するイメージについては、302件、D-2：「保護者からの相談」に関するイメージについては、290件の記述があった。D-0～D-2のどの質問についても、保護者の立場に立った様々な推測や具体的なイメージの記述がなされているものと、そうではないものが見られた。この中から本稿では、D-2：「保護者からの相談」に関する記述の分析結果について報告する。記述の一部

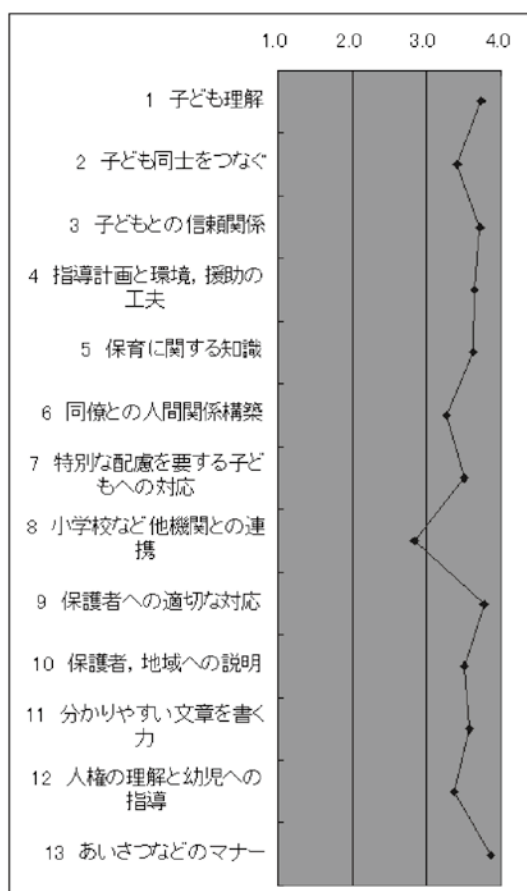


図1 C-1 保育者に必要な能力・資質に関する意識（質問C-1）

（分類前）を資料2に示す。

これらを内容毎に1件として、Excelに入力後、筆者ら3名によって分類を行ったところ、表4のような結果となった。

「①信頼関係の構築」にあたる記述（例：「保護者との信頼関係がもてていると思う」等）が8件と少なかった一方で、「③母親の先達として」のイメージが合計132件と最も多かった。

入学後間もない学生のうちの多くが、「育児やしつけ」（例：「子育てしていく中での悩み事」等）、「子どもについて」（例：「子どもについての相談」等）、「家庭での様子」（例：「家ではこ

表4 D-2 「保護者からの相談」に関するイメージ（自由記述）の分類

大項目	小項目	件数
①信頼関係の構築	保育者－保護者間の信頼関係	8
②プロの保育者として	子どもの発達	40
	子ども同士の関係	25
	園での様子、子どもの様子	11
③母親の先達として	育児やしつけ	53
	子どもについて	50
	家庭での様子	20
	家庭での問題	9
③その他	園や保育者への要求・不満	29
	事務的な事柄（行事、手続き等）	9
	保護者同士の関係	3
	「相談」そのもののイメージ（重要、緊張感、複雑等）	17
	その他	16
合 計		290

うなんですけど・・・」「最近元気がない」等）、家庭での問題（例：「家でうまくいっていない」等）といった、保育者を母親の先達として慕い、相談するというイメージをもっていると考えられる。

「②プロの保育者として」の関わり方をイメージした記述は合計76件であり、「子どもの発達」（例：「他の子と比べて自分の子どもの発達状態はどうなのか」等）、「子ども同士の関係」（例：「いじめられていないか」「友達と仲良くなれない」等）、「園での様子、子どもの様子」（例：「保育園などでの子どもの様子」「園でなじめているか」等）などがあつた。

今後、「③母親の先達として」の関わり方について、さらに具体的かつ多面的にイメージで

きるようになることが望まれる。保育者－保護者間における信頼関係の構築や、保育者としての専門知識を活かした関わりについて、重要性や役割について認識し、求められる対応について主体的に考えられる機会を与えていくことが必要である。

一方、「③その他」に分類されているものの中に「園や保育者への要求・不満」が29件あったことも見逃せない点である。例としては、「保育者に対してのクレーム」「保育所や幼稚園に対しての文句など」等があり、クレームを受けることを予想している学生が少なくないことがうかがえる。ネガティブなイメージに偏らず、保護者の立場に立ってその要望を聞くことの重要性や一緒により良い保育の場を作っていく過程としてとらえられるよう、適切な支援が望まれる。

また、今回と同じ質問項目を用いて、実習後に調査を行った場合、学生らの記述にどのような変化が現れるかが興味深い点であり、今後の調査についても検討したいと考えている。

（5）学生自身のコミュニケーション能力に関する意識（質問E）

質問Eの回答結果を表5に示す。また、傾向を示すグラフを図2に示す。

表5 学生自身のコミュニケーション能力に関する意識（質問E）

		①非常にそ うおも う (4点)	②かな りそ うおも う (3点)	①+② 割合	③あまり そうおも わない (2点)	④そうおも わない (1点)	③+④ 割合	合計
E	1. 他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか	14	97	42%	131	22	58%	264
	2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか	8	92	38%	149	14	62%	263
	3. 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか	16	110	48%	129	9	52%	264
	4. 知らない人でも、すぐに会話が始められますか	31	92	46%	115	27	54%	265
	5. まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか	8	98	40%	142	16	60%	264
	6. 他人が話しているところに、気軽に参加できますか	20	90	42%	130	25	58%	265
	7. 相手から批難されたときにも、それをうまく片付けることができますか	10	89	37%	139	27	63%	265
	8. 何か失敗したときに、謝ることに抵抗がありますか	8	35	16%	83	139	84%	265
	9. まわりの人たちが自分とは違った考えを持っていても、お互いの意見を尊重しあい、協力できますか	60	163	84%	41	1	16%	265
	10. 人の行為に素直に敬意を表せたり、お礼を言うことができますか	136	121	97%	7	1	3%	265
	11. 困っているときにうまく助けを求められますか	42	133	66%	85	4	34%	264
	12. 相手の話をじっくり聞くことができますか	106	131	90%	27	0	10%	264

※E-8のみ逆転項目（①が1点）

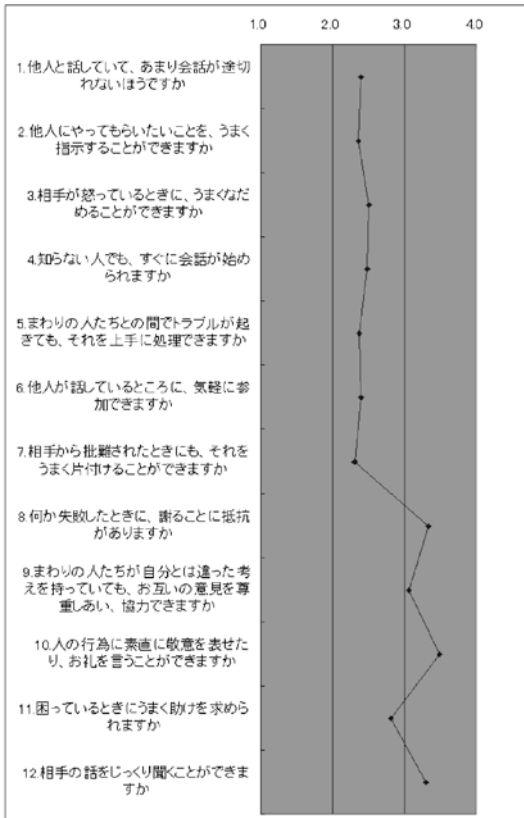


図2 学生自身のコミュニケーション能力に関する意識（質問E）

E：学生自身のコミュニケーション能力に関する意識（12項目）では、図2より、1～7の項目について、2点～3点という比較的低い数値が見られ、苦手意識があることがうかがえる。

一方で、8～12の項目については、比較的高い。

これらの項目を整理すると、苦手意識のある項目（1～7）のうち、1、4、6の3項目は、【他人との最初の関係作り】に関するものであり、3、5、7の3項目は、【緊張した関係の状態からの解放に向けての働きかけ】に関するものである。

これに対して、あまり苦手意識のない8～12

の5項目は、【内発的に行動するスタートが切れること】、または【受動的なこと】であると考えられる。このように、他人との最初の関係作りや能動的に働きかけることについて、困難や躊躇を感じる学生が多いと考えられる。

5. まとめと今後の課題

今回のアンケート調査を通して、保育者－保護者間のコミュニケーションをコミュニケーションの「内容」と「方法・技術」に着目し、一つのモデルとして整理した。これを図3に示す。

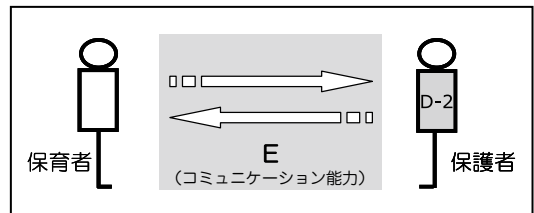


図3 保育者－保護者間のコミュニケーション

図3に示すように、コミュニケーションの「内容」は、本アンケート調査の項目D（今回はD-2のみ報告）であり、保護者のもつ様々な相談や要望にあたる。現場での学びに先立って、保育者養成機関においても、その具体的なイメージの育成を図る教育プログラムが望まれる。

また、円滑なコミュニケーションのための「方法・技術」が、図3の双方向の矢印、すなわち、本アンケート調査の項目E、学生（保育者）自身のコミュニケーション能力にあたると考えられる。

2－（2）で述べたように、今回は、まず学生の実状を明らかにすることを目的として調査を実施した。その結果、保護者対応についてのみならず、学生自身の日常においても、最初の関係作りや能動的に働きかけることに苦手意識

をもつ学生が少なくないことが明らかになった(前述4-(5))。従って、深刻な悩みや要求をもつ保護者への対応を考える前に、対保護者に限らず、人とのコミュニケーションの基盤となる学生自身の対人関係を自ら構築する力を育成することが、保育者養成機関におけるまず第一の課題であると考ええる。

筆者らは今後、これらの知見をもとに、単なる知識の習得にとどまらず、学生の体験を重視した教育プログラムの開発をめざしていきたい。

なお、本稿は2010年度日本教育工学会第26回全国大会(金城学院大学)での口頭発表に基づいたものである。⁵

引用文献

- 1 全国保育団体連絡会・保育研究所編、『保育白書2009』、ひとなる書房、PP.45-46
- 2 太田節子、「保育者養成課程における教育課題—保育者の意識調査を中心として—」、児童研究、87、2008
- 3 善本孝、「保育におけるコミュニケーション—保育士にもとめられるコミュニケーション能力に関する

調査から—」、横浜女子短期大学紀要、第18号、2003

- 4 杉山弘子、荒川由美子、東 義也、石田一彦、「保育者養成校における学びの形態」、尚絅学院大学紀要第55集、2007
- 5 中村博幸、真下知子、張 貞京、「保育者—保護者間のコミュニケーションの改善をめざした研究—保育者に必要な能力・資質に関する幼児教育学科学生の意識—」、日本教育工学会第26回全国大会、2010、pp.557-558

参考文献

- 上田淑子、「保育者の力量観の研究—幼稚園と保育所の保育者の比較検討から—」、保育学研究、第41巻2号、2003
- 長谷部比呂美、「保育者をめざす学生の志望動機と資質能力の自己評価」、淑徳短期大学研究紀要第45号、2006
- 高旗正人、中田周作、池田隆英、「保育者養成に対する社会的要請の調査研究」、中国学園紀要、第6号、2007、PP.149-160
- 安家周一、『子どもの理解と保育・教育相談』、みらい、2008

資料1 アンケートの質問項目

幼児教育学科 学生を対象としたアンケート

このアンケートは、今後の授業に役立てることを目的としています。それ以外の目的に使用することはありませんので、以下の質問に、思ったとおり回答して下さい。

A. 以下の項目に○をつけてください。その他の場合は()内に記入して下さい。

回生：(I 回生 , その他)

高校の出身学科・コース：(普通科 , 京都文教高校内部進学コース , その他 ())

B. あなたが本学の幼児教育学科に進学した動機をお聞きます。

以下の項目からあてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

また、特に強く思うものがありましたら、◎をつけてください。

1. 幼稚園教諭・保育士にあこがれて
2. 自分の幼稚園・保育園の先生との良い思い出があるから
3. 子どもが好きだから
4. 自分の特性を生かしたいと思うから
5. 幼稚園・保育園での体験学習の経験から
6. ボランティアの経験から
7. やりがいのある仕事だから
8. ただ何となく、他に適当な職業がないから
9. 周囲の人がすすめるから
10. 経済的に安定しているから
11. 資格を取得できるから

12. その他の理由がありましたら自由に記述してください。

()

C-1. みなさんは、保育現場で働く保育者にとって、どのような能力が重要だと思いますか？次にあげる能力のそれぞれについて、「①大いに重要だと思う」「②重要だと思う」「③どちらかと言えば重要だと思う」「④あまり重要でないと思う」のうち、あてはまるものに○をつけてください。

1. 子どもの発達や内面を適切に理解し、遊び・生活への援助を行うことができる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
2. 子どもの集団を把握し、子ども同士をつなぐように配慮することができる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
3. 子どもと信頼関係を築くことができる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
4. 子どもを理解したうえで、指導の計画を立て、適切な環境や援助のあり方を考えることができる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
5. 保育についての基礎的な知識がある
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
6. 同僚との望ましい人間関係を構築できる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う
7. 他の子どもよりも特別な配慮(例：発達の遅れや心身の障害、問題行動をもつ場合)を必要とする子どもに適切な対応ができる
①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

8. 小学校などの教育機関との連携をとることができる

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

9. 保護者への適切な対応ができる

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

10. 保育活動について、保護者や地域にきちんと説明できる

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

11. 分かりやすい文章で、お便り帳やクラス便りを書くことができる

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

12. 人権について理解し、幼児に人権意識とそれに基づいた行動を指導できる

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

13. あいさつ、言葉遣いなど、保育者・社会人としてのマナーがある

- ①大いに重要だと思う ②重要だと思う ③どちらかと言えば重要だと思う ④あまり重要でないと思う

14. その他、上記の項目以外で必要と思うものがあれば自由に記述してください。

()

C-2: 上に挙げたC-1の項目のうち、あなたにとって特に必要だと思う能力を番号で記入してください。
(複数回答可)

()

D: 事例について (自由記述)

事例 : あなたは就職して一年目の保育者です。迎えの時間になっても保護者が来なかったので、連絡したところ、母親から「どうして連絡したのか」と言われました。その対応に大変驚きました。

なぜ、その母親は怒ったのでしょうか。理由として考えられることを全て挙げてみてください。

()

1. 「保護者への連絡」と聞いたとき、どのようなものをイメージしますか。

()

2. 「保護者からの相談」と聞いたとき、どのようなものをイメージしますか。

()

E: みなさん自身についてお聞きします。次の項目それぞれについて、「①非常にそう思う」

「②かなりそう思う」「③あまりそう思わない」「④そう思わない」のうち、

あてはまるものに○をつけてください。

1. 他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
3. 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
4. 知らない人でも、すぐに会話が始められますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
5. まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
6. 他人が話しているところに、気軽に参加できますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
7. 相手から批難されたときにも、それをうまく片付けることができますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
8. 何か失敗したときに、謝ることに抵抗がありますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
9. まわりの人たちが自分とは違った考えを持っていても、お互いの意見を尊重しあい、協力できますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
10. 人の行為に素直に敬意を表せたり、お礼を言うことができますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
11. 困っているときにうまく助けを求められますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
12. 相手の話をじっくり聞くことができますか
①非常にそう思う ②かなりそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

F: あなたは、いま、対人関係について悩んでいることがありますか？

はい ・ いいえ

1. 上記で「はい」と答えた人に尋ねます。どのようなことについて悩んでいますか？
よろしければ、具体的に書いてください。

()

2. 上記で「いいえ」と答えた人に尋ねます。なぜ、そう思うのか理由を教えてください。

()

ご協力ありがとうございました。

京都文教短期大学 幼児教育学科
真下知子・張 貞京

資料2 D-2 「保護者からの相談」に関するイメージの記述（一部）

	A
1	* 子供が何かをしたとか
2	* 子供がうまくみんなとやっているか
3	* 子供が保育園、幼稚園に行きたくないと言っている。
4	* 友達に嫌なことを言われている。
5	* 成長の発達が遅い。
6	* 子どもがイジメられていないか
7	* 家庭で何かイザコザがあった時。
8	* お子さんについて何か聞きたい事があるのかな・・・。
9	* 私の事で何か言いたい事があるのかな・・・。
10	* 子供がいじめられているとか
11	* 発達についてのことを聞きたいとき
12	* 子供のしつけなどについて聞かれるもの。
13	* たいていが子どものことについての相談だと思うので、真剣に聞いて、一緒に解決してあげなければならぬというイメージ。
14	* 発達などについて不安がある
15	* 子どもについての相談。
16	* 行事の相談など。
17	* 子どものことで、先生に相談があること。
18	* きちんと理解しようとしなければならない。
19	* 子どもの生活について相談されること。
20	* 家庭での保育の悩み事・要望
21	* 自分の子と周りの子の関わり。
22	* 子供の状態（保育園から帰ってきてから～など）
23	* こどもに対しての相談
24	* 保育所や幼稚園に対しての文句など。
25	* 子どものことについて、なやんでいる。
26	* 子どものする行動や他の子どものこと。
27	* 相談というのは信頼しているからこそできるものだと思う。
28	* めんどくさい、荷が重い。
29	* 子どもについて何か困っていることや、
30	* 園に不満がある
31	* 家での子どもの過ごし方に不満があるかんじ。
32	* 育児についての相談（〇〇の時、どうしたらいいか）など
33	* クレーム、良い話ではない。
34	* 「うちの子供は〇〇〇なんです、これどうなんでしょう？」的な。
35	* もう、3歳やのに〇〇〇がまだできひん、とか。
36	* 子どもに何かあったのか。
37	* もしかしたら障害なのかしら・・・。
38	* 1対1で子供のことで話し合い。
39	* 保護者との信頼関係がもてていると思う。
40	* 親が子供に対して悩んでいる。
41	* 子供について、家ではこうなんですけど、園ではどうですか？
42	* 周りのお母さんについてなど。
43	* 教育方針のなやみがある。
44	* 子供の心のなやみがある。
45	* 仕事上、迎えに行く時間の遅れ。
46	* 子どもの発育に対すること。
47	* 人の価値感ってむずかしいなあ。
48	* 子どもの様子について（「今日、保育園から帰ってきたら元気がなかったんですけど、何かありませんでしたか？」みたいな）
49	* 育児の悩み。
50	* 他の子と比べて自分の子の発達状態はどうなのか。とか、子どもに対して不安があるとき。